

第 5 回(仮称)市民参加・協働のまちづくりプラン策定会議 概要

日 時	平成23年12月13日(火) 14:00~17:15	
会 場	白井市 保健福祉センター 3階 団体活動室	
出席者	委 員 出席9	関谷昇会長、星野隆史副会長、辻利夫委員、古山洋祐委員、赤間賢二委員、菊地正夫委員、佐野運吉委員、渡辺悦生委員、金子龍治委員、齊藤和博委員、
	欠席2	市川温子委員、松川輝雄委員
	庁内策定部会	松岡会長、相馬副会長、田中委員、森山委員、豊田委員、川村委員
	事務局	笠井市民活動支援課長、岡田主査、元田主任主事
	傍聴者	1名
会長あいさつ	<p>[会議の内容]</p> <p>第5回会議にあたっては、第3回、第4回会議と同様に(仮称)市民参加・協働のまちづくりプラン策定会議委員と庁内の策定部会の委員の合同会議として実施した。議題1については、今までの第4回までの議論について、意見をまとめたたたき台(資料1)として示し、今後のプランの方向性を意識しながら議論を行った。</p> <p>会議は、会長の進行のもと、事務局が説明に、会長が識見をもとに補足説明を加えた後に、委員が意見を述べ、今後の方針について議論するという流れで行われた。</p> <p>議題2については、事務局作成のイメージ図をもとに、会長が議長として委員から意見を求めた。</p> <p>本日は議題が二つある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議題の1つ目は、(仮称)市民参加・協働のまちづくりプランたたき台をベースとして、市民参加・協働の現状の課題とまとめであり、皆さんに既に議論していただいているところである。議論がし尽くされていない箇所について確認をしていただきたい。議題1は、たたき台の目次のうち、第3章にあたる。 ・議題の2つ目は、市民参加・協働のまちづくりプランによって目指す姿となり、第4章に該当するところである。第5章以降については、次回以降としたい。 ・まずは、3章、4章について議論をいただきたいが、まずは、事務局からたたき台について概要説明をもらい、その後に議論していた 	

事務局	<p>だきたい。</p> <p>議題1 市民参加・協働の現状と課題のまとめについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3回会議と第4回会議との間に市役所職員で、特に4章について、2度ほど議論を行いその結果を踏まえて会議資料を作成した。 プランについては、既に第2回会議で示したとおり、プランは6章構成となっており、概要は以下のとおりである。 <p>【第1章】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1章は、P.1～P.5までである。主に一般論を記述している。後期基本計画をベースに作成しているものであるが、安全安心については、今年は震災の影響もあるので、別箇に記述を行っている。 P.2の(4)は、「新しい公共」について、記述を行っているところであるが、公共空間について、会長から指摘があったため、新しいかどうかの議論というものは会議の中に含まれていないことから、新しいという文言を「削除」し、P.3の図もあらかじめ削除を行う。 プラン策定の背景を広く示すために第1章を設けている。内容は、ニーズの多様化、厳しい経済状況、公共の話、市民自治のまちづくりの構築というものとなっている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> 事務局から、新しい公共空間のうち、新しいという文言を削除するという話があったが、新しい公共空間は、ある意味では非常によくつかわれているが、誤解を招くような使われ方がかなりある。従って、白井市で計画をつくるにあたっては、正確な用語を使うべきだと思うし、誤解を招くような表現は避けるべきであるという考え方から、会長として事前に指摘を行った。 新しい公共はなぜ使われているかということ、これまでの行政が国中心であった構図があり、国中心であった構図が成り立たなくなっており、それを自治体中心、市民中心にしていく。という流れがあるが、これを市民社会の側から使うのであれば良いが、新しい公共という言葉は、中央省庁が使い始めたという経緯がある。国の行政の都合でできなくなったから、地方や市民社会にゆだねるという意味が新しい公共に使われている側面もあるので、そのような理解と誤解されないように、白井市が考える実践者からの視点で、多様な担い手による公共活動の実践という意味を込める意味で言葉を正確に使っていただきたいと考えている。

	<p>【主な意見】</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの表記についてわかりやすすくないので、全体的に出典等について配慮して欲しい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・統計については、直近のデータを利用したものについては直近であることを明記して欲しい。
事務局	<p>→推移を把握する時には、原則として同じ推移で行うが、現在の状況を併せて示したい場合は、直近のデータを利用するものとする。ただし直近のデータを利用する場合、また推計のデータを利用する場合は、脚注として必ず明記するようにする。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・団塊世代の白井市の職員の退職と白井市市民の団塊世代の退職が混同しやすいので、どちらであるかわかりやすく統一して明記するべきである。
事務局	<p>→今回のプランで明記しているものは、約 6,000 人いる団塊世代の市民の定年退職に伴う個人市民税の減少が課題であるとしているので、混同の無い様にその旨を明記する。</p>
会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・推計の数字は、今回初めて示したデータなのか。 <p>→総合計画自体には明記されていないが、総合計画の基礎資料として、既に公表している数字で市ホームページでも掲載している。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局は、あまり意図をせずに「新しい公共空間」という表現を使っており、今回削除としたが、今回の会議の議論については、なにか既に結論があって、結論に向けて収束するといったような会議は全く行っていない。誤解がないようにあらかじめお伝えしておきたいと考えている。だから、このような文章については、会議で議論したことを反映させるということであるので、削除すべきである。と考えた。
事務局	<p>【第 2 章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回、2 回会議について説明した内容ではあるが、元々このプランをどのような形で作成し、いかに総合計画をうまく実施することができるか。ということについてである。 ・総合計画に記載している事項について、もう少し具体化してプランに書き込むということが中心である。1 節については、総合計画の位置付けについて記載を行うとともに、プランの性格について記述してい

会長	<p>るところである。なお、図を全面に打ち出すこととなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2 節については、計画期間を記載した。総合計画が 10 年であることから、本プランは総合計画を推進するためのロードマップという性格も併せもつことから、総合計画、実施計画と併せた期間とし、見直しにおいては実施計画と併せて行うため、第二次実施計画の開始時期である平成 26 年を目途に見直しを行う。また、この考え方自体は、第五期総合計画にも引き継がれるものであるとする。 • 白井でこれまで、市民参加・協働というものがどのように取り組まれてきたのか。過去の取り組み・経緯については、たたき台に含まれていない。白井市は既に実施してきていることがあるので、これをちゃんと位置づけることが大切である。これを加えることについても意見をいただきたい。 • 白井市では、この 10 年について取り組んでいるということを記述していることもあるので、過去の取り組みについても記述する必要がある。白井市では、市民参加については、住民参加という言葉として、平成 8、9 年から取り組んできており、当時は、先進的な取り組みであった。こともあるので、きちんと紹介をしておくことと、P.6 の枠内の文言における社会潮流という表現は、第 1 章と重複するので必要としない。
委員	<p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 広報しろい平成 23 年 12 月 1 日号では、市民参加推進会議が、市長に市民参加のあり方について答申を行っている。答申意見についても、方向性は同じであると思うので、意見を採用したらいかがか。
事務局	<p>→市民参加推進会議の取り組みについても、採用したい。今回のプランについては、最初から新しく作るのではなく、今までの取り組み、経緯を踏まえて、いろいろな流れがあるということについて、ある程度の記述を行った方がよいと思う。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> • P.8 の図について、本文を読まないとわかりづらい。図を削除するか、図だけで本文の内容がわかるような形になるように図の工夫を行うべきである。
事務局	<p>→4 つの要素があるということを打ち出したのだが、図については見直しを行う。図と内容の整合が取れるようにして改めて打ち出しをしたい。これまでの取り組みについても採用していきたい。</p>

会長	<ul style="list-style-type: none"> • 行政が作る文書というのは、空間的な記述が多く、時系列的な要素が少ないので、時系列な取り組み、時空間ともに記述を行いたい。
事務局	<p>→市民が行政や、市民と市など、市、地域、市民の揺れがあるので、もう少し検証していきたい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> • P.7の(1)に市民参加条例という記述があるが、まちづくり条例も協働を強く打ち出したものである。まちづくり条例についても打ち出しを行うべきである。
事務局	<p>→まちづくり条例については、事務局の方で認識もれであった。確かにまちづくり条例は、市民がまちづくりを行うという観点からも大きな参加・協働のしくみの一つであるので、取り組みたい。</p>
事務局	<p>【第3章】 (市民参加・協働の現状 P.10~P.20)</p> <ul style="list-style-type: none"> • P.10以降、第3章となる。1が市民参加・協働の現状、2がP20以降nなるが、市民参加・協働の課題となっている。 • 1節については、そのうち、現状については、市民の意識、現状、市の現状と3区分を行っている。 • P.10について、前回の会議では、白井市ではPTAや子ども会が大きな活動の原動力となっているという意見があったことから、別に加えたものである。 • P.12~19については、過去に市が実施したアンケートから導き出した意見である。アンケートについては、どのようなアンケートを実施したかわからないと資料として成立しないという意見が庁内検討会議であったことから、次回資料には図表も加えて作成を行う。 • P.20の市民の意見の総論としては、自治会を中心に役員の期間については活動を行っている人が多いが、多くの市民が継続して実施していくまでに至っていない。また、市民活動が大切と思っている人は多いが、行動までに至っていない。また、世代で確認すると若年層の男女、働き盛り世代の男性の市民活動の割合が低い傾向にある。 • 市は、情報発信、体制づくり、拠点づくり、ルールづくり、財政支援の観点から、市民参加・協働の事業を実施している。
委員	<p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「市民自らが地域の課題を考え主体的に解決していく」意識が高まりつ

事務局	<p>つあるという表現は言い過ぎなのではないのか。芽生えつつある程度ではないか。</p> <p>→確かにアンケート結果を見ると、高まる傾向まで把握できないところがある。ただし、一部の人たちが頑張っていて、全ての市民にまで広がっていないということがあるので、芽生えつつあるという表現に改める。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地縁組織という表現は、わかりづらいので、地域組織の表現の方が良いのではないか。
事務局	<p>→一般的に自治会などを総称して、地縁組織と表現することが多いです。一般論として利用するのか、市民がわかりやすいという観点で利用するのかは統一しておきたい。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の中には、地縁活動などが含まれている。地域活動というものは、非常に幅の広い言葉であり、NPOであろうと自治会であろうと地域活動という。その中で特徴を表すために、自治会などの地縁活動や、NPOなどの志縁活動（しえんかつどう）だとかいろいろな用語により表現が行われ区別している。ただし、市としていつまでもその用語を利用する必要があるわけではないので別の言葉を用いるという選択肢もある。
事務局	<p>→その他の事例もあるので、地縁組織の表現はそのまま利用としたい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ拾いという表現は、ゴミゼロ運動という表現を一般的に利用しているの、その方がイメージしやすいのではないか。
事務局	<p>→訂正する。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の加入率が67.8%というのが他市との比較で、多いのか少ないのかわからないが、白井市の市民参加・協働を捉えると、実感だけではなく、市民参加推進会議の答申を見てもわかるように、白井市は非常によくやっている。今までの白井市の市民参加・協働については、量を基準としていたが、今はもう質に入ってきている。このため、量の評価ではなく、質の評価になっているので、まずはよくやっているとして評価を行いたい。ただ、自治会の加入率というものが良いのか悪いのかわからないので、なんともいえない。個人的な感想からいえば、白井市ではよく市民が活動しているし、市もよくサポートしている。
事務局	<p>→近隣の状況については確認を行ったうえで、資料として掲載を行う。</p>

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現状として、良くやっているということを全面に打ち出さないと、課題を表したときに、何もやっていないということになるので表現については、注意が必要である。
事務局	<p>→現状については、文字通り行われていることを客観的に表記することと、このような意義があるということをしっかり記述する必要がある。もう一つは、この会議で出てきたように問題もある。例えば自治会などとNPOは必ずしも連携がうまくできておらず、地域における縦割りの構造はあると思うので、そのようなことも記述して良いと思う。しっかり記載することでまとめたらどうかと思う。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的な現状と、それによる成果、そして問題点で整理すべきである。 ・我々国民の意識の中では、3.11以降と3.11以後では大きく異なっていると考えている。我々が白井市を評価するときに、3.11のイメージで表現していることもある。文献では、3.11以降の記述もかなり見受けられるようになっており、3.11以降、地域コミュニティの重要性が再評価されている。この現状の中で、3.11以降必要性が高まっているということ表現しても良いとは思う。 ・問題点を記載するという事になると、P.20の課題についても触れざるを得ない状態である。課題における文書の表現は、問題点を記述していると思う。議論の流れが見えるような形にした方がよいのではないか。
事務局	<p>→会議ではいろいろと意見が出されたが、問題、評価すべきことについて、客観的に描きたい気持ちもわからないではないが、会議を積み上げてきたという側面もあるので、表現の仕方はあるとは思いますが、具体的な事例について記述を行っても良いと思う。</p> <p>P.20について課題の部分をまとめていくとわかりやすくなると思うので、きっちり描きながら記載する。また、多くの自治会では、どういふところに問題があるのか、どういふところに課題があるのか。ということについてクリアとなっていないところがありますので、この会議ではそのあたりを議論してきたので可能な範囲で交通整理して盛り込みたい。</p> <p>→P.10に今までやってきたけれど、こういう評価がある。一方でこういう課題がある。更に3.11以降、この会議では現状としてこういうことが明らかになってきたということを加えます。(今後修正)</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・白井はこれだけやってきたのだから、もっとアピールしても良いのではないか。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化して、退職をした人というのは、市民活動に引き入れるのに狙い目な人たちである。だから、ここの白井の場合どうなっているのかはわからないが、これまでと比べて増えているのか減っているのか。たぶん、ここから、問題を把握できる部分があるのではないか。例えば、どこか減ってきているぞ、とか、若い人が入ってこない。などいろいろとあるので、これまでのワークショップなどで出てきているので、このあたりを見せてもらえるとわかりやすくなるのではないか。
事務局	<p>→これはデータで表せばよいですか。データを付けることで良いのではないかと思います。白井市は人口が増えているので、自治会は増えているし、自治会の加入者も増えているところであるが、個々の自治会では加入率が下がっているところである。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・データで良いと考える。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会加入率はどういった単位か。 <p>→市民世帯全体のうちの自治会員数というのであればある。</p>
関谷会長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域別のものがあると、地域の傾向がわかりやすくなるので、時系列と地区別の推移がわかる課題もあきらかになるのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフについては、円グラフ、棒グラフなどサンプル的に作成してもらえれば良いと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P.18の(3)の一番下であるが、財政支援の観点からという表現がわかりづらいので訂正をした方が良い。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今後協働を整備するために裾野を広げたり、財政支援をしたりなどいろいろなことが記述されていると思うが、事業課ごとに協働事業が豊かにできているかというとまだまだなので、現状と成果を得ている部分と問題の部分、例えば、市役所庁内でまだまだ協働が浸透していない部分については、明確に記述するべきであると思う。
事務局	<p>→了解した。市民の現状課題と、市の現状課題とを分けて記述する。</p>
事務局	<p>(市民参加・協働の課題 P.21~P.24)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の設定にあたっては、第3・4回の議論から抽出を行った。なお、

	<p>その他の会議等により課題設定を行ったものについては、()で表示した。それぞれの議論となった回の根拠は以下のとおりである。</p> <p>(1) 行政への市民参加の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①情報公開と情報共有 (第2回会議・市民参加推進会議から抽出) ②市民参加制度周知・啓発(第2回会議・市民参加推進会議から抽出) ③市民参加機会の拡充(第2回会議・市民参加推進会議から抽出) ④市民と行政の役割分担 ⑤職員の意識改革の推進とコーディネーターとなる職員の育成 <p>(2) 地域コミュニティへの市民参加の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①コミュニティ意識の向上 ②市民参加・協働意識の向上 ③協働のコーディネーターとなる市民の育成 ④地域経営の視点からの団体のつながり ⑤自治組織の活性化 ⑥事業者の地域コミュニティ・市民活動への参加(第2回会議抽出) <p>(3) 協働のしくみへの市民参加の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①協働の仕組みづくり(第2回会議から抽出) ②協働のモデルづくり ③市民活動推進センター機能の充実(第2回会議から抽出) ④提案型協働事業の創設(第2回会議から抽出) ⑤協働の評価(事務局・庁内策定部会から抽出) <p>会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの意見を反映させている箇所である。ここをもっと具体的に記述していても良いと思う。 <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このような計画を策定する場合、課題は課題で良いが、課題は今後の施策に反映させなくてはいけないので、どのようにして課題を解決することができるのか。という施策を作らなくてはいけない。今回の事務局たたき台を見るとそのような課題設定が多いが、どうやってやるか。という部分について目途がつかないといけないのではないかと。次回以降、課題に沿った施策が示されると理解して良いのか。 <p>事務局</p> <p>→施策については、二通りあると考えており、既に課題として示したものについては、裏返しの施策は事務局案として示させていただきたい。また、庁内部会でも検討を行うが、その他のものについては、職員とは違った視点で、皆さんから意見をいただきたい。</p>
--	--

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画というのは〇〇を推進するとか、努めるということでは具体性がない。だから、それを推進するのであれば、どうやって推進するのか。例えば人材の育成を推進する。ということであれば、それはそれでいいのだけれども、どうやって育成するのかということを計画に打ち出していかないと、ただ文章を書いただけで終わってしまうので、この課題の中に書かれるのは構わないが、それをより具体的にどうやって進めて行くのかというのを次回の会議に出していただければ良い。
事務局	<p>→次回の会議では、施策をイメージとして示す予定である。皆さんの中でこれでは今の課題をクリアできない。ということであれば、更に皆さんから意見をもらいたいと思う。市の方で考えた施策だけで、市民参加・協働のまちづくりが実践できるのであれば、なんのためにワークショップを行っているのかもわからなくなってしまう。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P.24の協働のモデルづくりとして、防災などのモデル事業という表現が行われているが、最初は、「モデル事業」と表記しておいて、その後の政策体系において、「防災を協働でモデル事業」と記述した方が見せ方として良いのではないか。 ・モデル事業を実施する際には、テーマとして、防災が非常に良いと考えており、3班でもそのような意見があった。ただ、実際に実行段階で検討した場合、防災だけをやるのではなく、それ以外のモデル事業も考えられる。そういうことを含めてより具体性を持った施策を提示していただければと思う。
事務局	<p>→とりあえず、こちらとして、概要は提示したい。しかし、果たしてこれで実践できるのかどうかということについては、この会議の中で、皆様の意見を出していただいて、全て行政主導で作るのではなくアイデアをどんどん実施していただきたいと考えています。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・目次をご覧いただきたい。第3章に描くことは、今までの議論を踏まえて、どういうところに問題があるのか、どういう風に克服していくべきなのかというのを記述し、それを具体的にどうするのかということについて、第5章において、市としてこのような施策を実施するというのを描く予定です。具体的な箇所についてはどの程度記述するかということも含めて次回検討を行いたい。 ・委員のおっしゃるように、具体的な改善方法がなく、結果が見込めないことについて課題として書きすぎてしまうと、困るのではないかとということもあると思う。 ・他の市町村の計画だと、大きく環境の整備などと規定して、それだけ

事務局	<p>で課題であるとしているところもある。具体的な施策になった時点で、記述しているところもある。課題として、詳細を記述しているのが非常に良いことであるが、突っ込みすぎるとそのバランスが取れなくなってしまいうところもあるので、心配している。</p> <p>→そのことについても次回に調整を行いたいと考えている。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> • 大体、みなさんの意見が出ているということであれば、これでよろしいか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 私たちが3班として議論してきたことを課題としてまとめてきたということについて、メリットとデメリットがあると思う。3つの班で分かれて議論したことであるので、多少重なりがあることが見受けられる。例えば、P.22のコミュニティ意識の向上と組織の活性化など次元の違いはあるが、全体的に類似しているものをまとめるなどを行った方がよいのではないか。課題が17~8程度あるので集約した方が読みやすいのではないか。デメリットとしては、まとまるので薄まるような傾向があるので、議論により決定したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • どのグループでも同じような結論となるのではないかと感じている。今の状態でも十分にコンパクトとなっている。今回の補足資料についても、補足資料として加えていただくと良いと思う。というのも、ここだけしか見ないとコンサルタントが記述したような印象を受けてしまう。結果としては同じ記述となったが、経緯があるので、経緯についてもちゃんと明らかにした方がよいと考える。
事務局 委員	<p>→内容の修正を加えて補足資料としたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 補足資料のうち、問題、原因、解決策については、表のまま掲載しても良いのではないか。具体的に会議の中ででたことについて、掲載することも良いと思う。もちろん重複はやむを得ない場合を除いてない方が、読む側からするとわかりやすいと考える。
会長	<p>→了解した。委員の声というコラムをつくるというのはどうか。こういう見せ方もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> • トピックを入れるのであれば、コラムだけではなくて、事例を入れるなど要所に組み込むと具体的なイメージがわきやすいと思う。 • 加工しないで、生の声を入れるのか、どのような方向にしたら良いか。ワークショップの様子など写真撮影していたと思うが、少しわかりやすいように写真・図形などで加えるといいのではないか。

委員	<ul style="list-style-type: none"> 市の議事録については、決まった形があるのであろうか。一般的な話であるが、非常に読みづらいということがある。黒の部分が非常に多く、文字数が多いように感じる。市民に見せるプランということであれば、白地の部分を大きく見せ、わかりやすくなるようなデザインを工夫した方が良い。
事務局	<p>→このプランは市民参加・協働についてのプランであるので、皆さんに見てもらうことが、大切である。みなさんの目線で、表現やデザインについてもある程度進捗した時点で意見をもらいたい。</p>
会長	<p>どう集約するか、どうレイアウトするかということは工夫として重要である。最終的にどうまとめるかになる。</p>
委員	<p>P.22の規定であるが、②における表現は、地域に参加するという表現が望ましい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> P.26の市民参加条例における市民参加・協働について、市民参加条例が実施される前に既に動いている事業については、その対象としないということがあった。既存の事業についても市民参加・協働の視点で評価を行うことが必要なのではないか。
事務局	<p>→全ての事業において、市民参加・協働の視点で再検証を行う必要がある。</p>
事務局	<p>議題2 市民参加・協働のまちづくりプランによって目指す姿について</p> <ul style="list-style-type: none"> P.25に記述する予定の市民参加・協働のまちづくりプランによって目指す白井市の姿のモデル図について議論を行いたい。このモデル図を作成する一つの理由として、個々の施策の議論に至る前に、市民参加・協働のあり方とはどのようなイメージかということについて、方向性を一致させるための議論を行いたい。 議論を行うにあたって、何も無い状態から議論を行うとわかりづらいため、事務局として、資料2のとおり皆さんの今までの議論についてモデル図を作成した。モデル図をもとに議論を行ってもらえれば幸いである。 <p>(資料2説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> P.1は、第4回の会議をもとに作成したものであり、①行政の風通しを良くする②団体の連携を高め、地域を豊かにする③モデルを維持して更に拡大するためのしくみをつくることを意識している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ P.2 上段は、市民参加・協働のモデルとして、自助共助公助を図示している。 ・ P.2 下段は、①は行政のPDCAサイクルの全てに市民参加が実施され、市の事業が進展するイメージしている。 ・ P.3 上段は、様々な団体が参加して、地域が作られているイメージ ・ P.3 下段は、地域のそれぞれの団体が、得意や関心のあるテーマごとにそれぞれの判断で、参加、離脱できるイメージしている。 ・ P.4 上段は、②地域コミュニティと地域ネットワークのモデルであり、様々な地域の主体が地域コミュニティ協議会（仮）という一つの形に集まり活動するイメージしている ・ P.4 下段は、地域で多様な団体が重なりあい、連携して活動し、様々な領域が埋められるイメージしている。 ・ 意見をもとにモデル図を作成したので、それを踏まえて議論いただきたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 4 章以降は、今までの議論を踏まえて、これからの白井をどうするかといことを描く箇所となる。第 4 章ではプランの策定と白井市の目指す姿をイメージしたいという考えである。あらためてこれまでの議論を踏まえながら白井市での議論を進めて行くかということについて、ご意見いただきたい。 ・ なお、P.25 以降は、定義であるが、現在の文章は、一般的なことを記述したものであるとの事務局の説明があったが、これにどのような意見を加えて、白井市のものとしていくのかがこれからの議論の中心となる。 ・ 市民参加・協働における役割分担については、領域を図示したものはあるが、誰がどのようにして決めるかについて明らかにしていない取り組みが多い。白井市では、市民と行政が話し合いによって決めるということをもっと明らかにしていきたい。 ・ 協働について誰が決定するかの記述がないのは、決めているのが行政だからである。
会長	<p>（白井市の目指す姿のモデルについて・自由討論）</p> <p>図示されたモデルのうち、表題のものが非常にわかりやすいとのことから、関谷会長が第 4 回会議で図示した <u>P.1 のモデル</u>を採用することとし、そのモデルをたたき台として議論を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ モデルで表しているのは、地域コミュニティでいろいろな団体が交わ

り豊かな活動が行われるというイメージと市民や地域コミュニティが行政のいろいろな場面にもっと関与、参加していくことで、連携の度合が高まる若しくは、役割が見直されるというイメージを一つの図にしている。というのが、今までの議論においておぼろげながら見えている事項である。このことについて、こういうイメージであったら良いのではないかということについて委員それぞれから意見をいただきたい。

[双方向のイメージについて]

- イメージ図を示すことは知覚的に認識しやすくなるのでイメージ図を使った方が良い。現状と将来をもっと明らかにした方が良い。
- 矢印の大きさ、太さ、破線などデザインを見直す方が良い。
- 矢印の形は双方向というのが協働において望ましい。
- 協働を決めるのが誰かということに言及している計画書は少ない。協働を決めるのは、市民と市の協議。
- 協働は、それぞれの社会資源を融通し合うことに意味がある。行政資源、社会資源がよくわからない状態である。資源の確認が今後必要。
- 地域の多様性について検討を行うべきである。
- 話し合いによって議論を行うべきである。
- 策定部会でも市民参加・協働の取り組みについて議論を行った。花植えや公園清掃などいろいろなものがある中で、行政職員の思いとして、こういうことなら協働ができるのでは。という議論を行ったが、市民が求めている協働事業の意識調査に違いがあることが明らかとなった。行政職員として、まず市民の意識と違いがあることから、市民と行政の協働については、マッチングが必要である。協働というときにこの機能をもっと考えていかないと押し付けの協働になってしまう。そういった意味から双方向は必要であると感じている。
- 協働というのは、共ではなくて、協なので、行政と市民がお互いの持ち味を出して協働活動するということが正しい。そのためにはそれぞれの持つ社会資源について整理するとともに、それぞれの立場について理解を深めることが必要。どういう協力ができるのかということに気づけるかと考えている。
- 市民の一方通行はおかしいと思う。双方向性、協議して決めるというのが原則であるので、図示すべきと考える。
- 行政の取り組みの破線は、透明性を示している。
- 双方向についてイメージはわかるが、具体的に双方向とはどのような形であるのか。協議というのは一つの形であるが、協議のやり方は非

<p>会長</p>	<p>常に難しいと考えている。双方向の中身、手法というのを決めるのは今後の工夫になるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画づくりに抽象度が高まれば高まるほど、やる気がなく、具体性が高まれば高まるほど本気だとみなされるので、その他の事業との支障のない範囲での工夫が必要である。 <p>[地域コミュニティのイメージについて]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろんな団体が集まって、議論をするということはイメージとしてあると思うが、これをどこまでの存在にするのかということについては、議論を重ねなければならない。 ・以前にも議論しているが、コミュニティの形としては様々な形があり、比較的多いのは、小学校区単位程度でまちづくり協議会などをつくり、いろいろな団体が意見交換会を行うとともに、その単位で様々な取り組みを行い、そこに一定の補助金を支出しているということが多い。 ・もっと踏み込んだところでは、大きな自治組織をつくり、地域に関する施策を市で実施する際には、協議会の同意を得なくてはならないとするという制度設計をしている市町村もある。 ・今回のプランの中でコミュニティの形をどこまで落とし込んでいくのか。議論が足りないところであるが、目指すべき姿はいろいろな団体が連携をしながら、地域を盛り上げていくということである。 ・白井におけるコミュニティの形をどういう形でつくっていくのか。ということについてもう少し議論をしていきたい。やり方としては、〇〇協議会を全市的に一斉に 9 の小学校区で始めるということもあるし、地域で合意を得たところから始めるという方法もある。また地域によって形はまちまちで良いから、それぞれ個性を出し合って選択するということもできる。このあたりについてどれほど踏み込んでプランの中で描くことができるか。ということについても次回議論を行いたい。 <p>(委員の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P.29 の相談事業、調査研究事業、子育て支援事業、ボランティアコーディネートなどは、現在市社会福祉協議会が担っている事業でもある。モデルでは、地区社協という表現であるが、市社協も地域の活動主体として加えてほしい。 ・地域では、それぞれの団体ごとに、いろいろな活動が行われている。しかし、地域の意識が弱い、地域の縦割りがあって、地域の団体お互いの交流が少ない部分もある。
-----------	--

<p>会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コミュニティの目指す姿として、それぞれの活動を更に活発化して地域活動を充実させ地域に貢献していく。という考え方と、小学校区程度の規模での横のつながりを広げることが、住民間の可能性を高めるとともに、行政との関係でいえば、地域における組織だった受け皿となることもあるので、そのような意味で地域の横のつながりを深めた方がよいという議論となっている。 • どうしたら、行政と地域市民が協働できるかということについて今も考えている。例として、高齢者と市をつなぐ仕組みをどうしたらいいのか。ということを考えているが、今の皆が考えることのできる状態であれば、まず行政が地域において、あり方を示すことで、行政の主導のもとで市民の参加を進めることも必要であると思う。その後、行政が手を引いて市民主体とするところもあるのではないかと。 • 協働の環境を整えれば、協働の事例自体が増えてくるということがあるので、まず地域の受け皿をつくるべきという考えることも必要である。 • 自治会等長意見交換会として、市では自治会長を中心に社協や民生委員などで防災や社会福祉について議論を行っている。最終的にはいろいろな団体が加わり、テーマを決めて、組織を作っていきたいと考えている。 • 自治会については、それぞれのところで温度差が非常にある。温度差がある自治会がそれぞれつながるためには、協働をするために一つの共通点がないとつながることができない。それが防災のようなモデルであると考えている。 • 行政が提供する考えるきっかけや事業などを通じて共通項をもつ関係を段階的につくって、いろいろな立場の連携を広げていくというイメージが地域での取り組みとしては、白井では進みやすいのではないかと。 • 地域であっても、縦でやった方が強い自治会のような団体もあるし、社協のように連携が中心となって横に強い団体もある。ここをうまく組んでいくことが必要である。団体についてどのような強みがあるのかを知ることは非常に大切なことである。NPO と自治会などの相互の補完が活動としてある。 <p>[市民参加・協働の流れ（矢印）/議会について]</p> <ul style="list-style-type: none"> • コミュニティのイメージとしては、既存の様々な団体がうまく交わり相互に補完できるような、あるいは共通の意識というものを行政がある程度きっかけとして与えることで、横のつながりを段階的に作っていくようなそのような形のコミュニティを豊かにしていくということ
-----------	--

である。具体的にどのような形とするか。

- 双方向的な形を充実しながら、あるところでは行政がきっかけをつくり、またある部分では、市民が主導性を発揮するという形を協働の中でつくっていく。双方向性を売りにしながら、道筋をつくれるかということにある。このプロセスはイメージとしてあり、具体的にどうするのかということについては、次回の議論としたい。

(委員の意見)

- 一般の市民が見たときに、市民と議会の関係が曖昧である。協働における議員の役割はどのようにあるべきか議論が必要である。
- 議会の取り扱いは非常に難しい。議会における市民参加の事例は多いが、協働という案件は少ない。
- 協働を捉えたときに、ほとんどの自治体は、住民と行政の二者間関係で利用されている。それでいいのかどうか。個人的な考えでいえば、協働は住民と行政だけではなく、住民と議会ということも大いにありうる。
- 現在の計画では、協働について、住民相互のもの、住民と行政については、記載しているが、委員の皆さんはどう考えるか。
- 双方向を強く意識したときには、議会は必要である。
- 議会は、住民と機関としての議会、住民と住民の代表者としての議員の集合体としての二つの性格を持つため、一律に考えることは難しいのではないか。
- 市民参加・協働が政治の問題となるのは良くない。例えば NPO への支援が政治で決まるとなると推進の意味がなくなる。
- 個別の事業を実施する際に、予算は議会の権能であるが、やり方である協働については、議会が関与することは非常に少ない。そのため、議会がサイクルの中に入ってくることについては疑問がある。
- 協働における議員のあり方について、議員は住民の代表であることから、アドバイザーとしての性格を持っているのではないか。
- どういう場面で、住民と議会の協働があるかということを示さないとイメージしづらいのではないか。

→市民参加・協働の方向性については、一定の合意を得たが、本計画への議会の位置付けについては、委員の意見として除いた方が良いとする意見が多かったが、意見が分かれること、今回の計画は、行政における行動計画の側面もあることから、今回では議論が足りないので次回も案件とすることとした。

会長	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 将来のモデル図の中で、市民と行政との対立がないように、市民と行政の高さが一致する方が誤解は少なく、双方向性をイメージできると考えている。 • コミュニティについては、エリア設定の規模範囲をどのようにするかということが大切と考えている。歩ける範囲、車の範囲などのエリア設定と、場の問題として、小学校なのか、中学校なのか、公民館なのかといったところで、地域のコミュニティの個性が生じるのではないかと考えている。 • 例えば NT 地区では、共通の課題がなければつながることができないという非常に弱い側面もあるので、このような場所では共通の課題をみつけていくとか、旧来からの地区であれば、相互扶助の精神が育っているところが多いので、相互扶助を特徴とするなど、最終的には3つくらいの性格をどう組み合わせるかと考えている。 • 範囲、区割り、既存の特徴・歴史的背景の違いによる地域の特徴化などを尊重しながらコミュニティのイメージをもっていきたい。次回は、それを踏まえて、具体的にどうすべきかの議論を行いたい。
事務局	<p>事務連絡</p> <p>次回会議は 12 月 22 日（木） 9 時 30 分～市役所 4 階 大会議室で行う。次回は、本日の修正と施策体系について議論を行う。</p> <p>以上で第 5 回会議を終了いたします。ありがとうございました。</p> <p>17：15 会議終了</p>